

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	ジュニアスペース・らいぶ堀川三条		公表日 令和8年2月26日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9		定員を遵守し、活動内容に合わせたレイアウト調整を行っています。	利用児童が多い日の動線確保をさらに効率化します。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9		基準を遵守する配置を心がけ、手厚い支援体制を維持しています。	お子様の急な状態変化に即応できるバックアップ体制を強化します。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	3	視覚的なスケジュール提示などで環境の構造化を図っています。	建物の構造上（玄関の段差等）、物理的なバリア解消が今後の課題です。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9		日々の清掃を担当者を決め行うことで、常に清潔な環境を保っています。	経年劣化への対応や、よりリラックスできる備品の検討を行います。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	3	個室を利用し、クールダウンできる環境を設けています。	カームダウンスペースの固定的な確保が十分でない場合があります。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8	1	週次ミーティングで目標と振り返りを全職員で共有しています。	振り返りの内容をより具体的な数値や行動変化で記録します。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	1	定期アンケートに加え、送迎時の対話や面談からニーズを汲み取っています。	把握した意向を支援計画へ反映させるスピードを向上させます。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	2	支援までの時間や研修などを通じて支援者の声を確認しています。	若手職員からも積極的に提案が出やすい雰囲気作りを継続します。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	5	自己評価に加え、外部の視点を取り入れる意識を持っています。	昨年度に続き、公的な第三者評価の受審機会を模索します。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9		外部研修への参加を推奨し、内部での伝達講習を行っています。	5領域に特化した専門性の高い内部研修をさらに充実させます。
適正	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9		LINEなどで月間のプログラムを分かりやすく公表しています。	支援プログラムと療育の目的の関連性をより明示し、専門性を可視化します。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	9		アセスメントに基づき、個別ニーズに即した計画を策定しています。	保護者様や本人の将来の希望（意思決定）をより色濃く反映させます。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9		児発管と指導員が緊密に連携し、最善の利益を検討しています。	支援方針の細かなニュアンスまで全員で統一する工夫をします。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9		常に個別支援計画を意識した声掛けや介入を徹底しています。	計画の進捗状況を、より客観的な指標で測定します。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8	1	フォーマル・インフォーマル両面での評価を組み合わせています。	ツールの活用精度を上げ、より多角的な分析を目指します。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	2	本人・家族・移行支援の各視点を計画に盛り込んでいます。	地域支援・連携の項目を、より具体的な行動計画に落とし込みます。

切 な 支 援 の 提 供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9		全スタッフで知恵を出し合い、バラエティ豊かなプログラムを作っています。	立案にかかる時間の効率化と質の向上を両立させます。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8	1	季節行事や新しい遊びを積極的に取り入れています。	入れています。プログラムがマンネリ化しないよう、外部の成功事例も研究します。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	9		お子様の特性に合わせ、小グループと個別対応を併用しています。	集団活動の中で、より個々の目標を達成できる仕掛けを作ります。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9		必要に応じ役割分担を明示し、スムーズな受け入れ体制を整えています。	情報共有の漏れをゼロにするための確認フローを再点検します。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	9		その日のうちに気付きを共有し、翌日の支援に活かしています。	良い変化だけでなく、課題への対策についても深く議論します。また全職員に対する周知も徹底します。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9		ICTツール等を活用し、正確かつ迅速な記録を行っています。	記録の質を平準化し、誰が読んでも状況が分かる内容を目指します。
	23	定期的なモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9		6ヶ月ごとの評価を徹底し、必要に応じて計画を修正しています。	本人や保護者の変化を、より敏感に計画へ反映させます。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ、支援を行っているか。	7	2	プログラム作成時に4つの基本活動をバランスよく配合するよう意識しています。	各活動の「狙い」を職員間で再定義し、支援の質を高めます。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	9		遊びの選択など、自ら選ぶ機会を意図的に作っています。	各自動の特性に応じて選択肢の提示方法を工夫し、より高度な自己決定を促します。
	関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9		状況を熟知したスタッフが会議に参加し、情報を届けています。
27		地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	2	医療・教育機関等との連携ルートを確認しています。	すべての児童に対してにできているわけではないので、より精度を上げ徹底していきます。
28		学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	9		送迎時や電話連絡で、学校での様子を丁寧に確認しています。	年間行事予定の早期把握など、一歩進んだ連携を目指します。
29		就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	2	6	移行期の支援を意識し、過去の支援情報の把握に努めています。	卒業園との具体的な情報共有の機会が不足しているのが現状です。
30		学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	9		将来の進路を見据え、情報提供や見学支援を重視しています。	高等部卒業後の進路についても、知識の蓄積と共有を行います。
31		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5	4	研修等を通じて、専門的な助言を得る機会を設けています。	スーパーバイズを受ける頻度を高め、支援の質を客観的に高めます。
32		放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	6	3	地域資源の活用方法を模索しています。	地域交流の機会が少いですが、ニーズのばらつきがあるため慎重な検討が必要です。
33		（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	8	1	自立支援協議会等へ参加し、地域課題を共有しています。	参加して得た情報を、より現場の支援に還元する仕組みを作ります。
34		日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9		面談や送迎など日々の対話を通じて、お子様の成長を共に共有しています。	課題についても、より丁寧かつ前向きに共有できる対話力を磨きます。
35		家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7	2	情報提供や個別の相談支援を行っています。	ワークショップやペアトレなどの具体的な開催頻度が不足しています。
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9		契約時に説明をしております。	制度改正時など、より分かりやすい資料での説明を心がけます。	

保護者への説明等	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9		面談等を通じて、ご家族の思いを深く聞く時間を設けています。	お子様本人の「意思」を汲み取る手法をさらに研究します。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8	1	支援内容を解説し、納得いただき捺印を頂いています。	文言の平易化を図り、より伝わりやすい計画書を目指します。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9		電話やメール、LINEを含め、いつでも相談できる体制を整えています。	相談内容の記録と共有を徹底し、組織的な対応力を高めます。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	8	1	参観イベント時などで交流する機会を作っています。	今後、茶話会などの企画を通じ、保護者間のつながりを支援してい蹴るよう検討を行います。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9		契約時に説明をしております。窓口を説明しています。	苦情に至る前の「小さな不満」を早期に察知する感度を上げます。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	9		不定期ですがHPなどに掲載しています。	定期的に活動報告することを徹底していきます。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9		施錠管理やアクセス制限を徹底し、規程を守っています。	デバイスの取り扱い等、職員への教育を定期的実施します。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9		保護者様の特性や言語に合わせた伝達方法を選択しています。	合理的配慮の観点をさらに深めます。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	7	現在できておりません。	地域の方に対して開けた運営をすとお言う事に対しての忌避感がある方もおられます。今後慎重に検討していきます。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9		実践的な訓練を行い、職員の防災意識を高めています。	保護者様への周知方法を、より「伝わる」形に工夫します。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9		災害時でも支援が継続できるよう、備蓄や体制を整えています。	震災や感染症拡大など、想定するリスクの幅を広げた訓練を行います。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	9		服薬状況や既往歴を把握し、日々の支援に努めています。	緊急連絡先の変更など、情報の更新漏れがないよう徹底します。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9		指示書に基づき、誤食防止のチェックを行っています。	アレルギー情報の共有を視覚化し、より安全性を高めます。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	3	安全計画を策定し、ヒヤリハット研修を実施しています。	施設内の安全点検を、より多角的な視点（こども目線等）で行います。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	2	研修の様子などをホームページで発信しています。	発信が不定期にならないよう十分に注意します。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9		軽微な事例も隠さず共有し、再発防止策を講じています。	「なぜ起きたか」の根本原因分析を、より深掘りする習慣をつけます。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9		定期的なセルフチェックと研修で、不適切なケアを未然に防いでいます。	虐待防止委員会の活動をより活性化させ、風通しの良い現場を作ります。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	9		身体拘束ゼロを原則とし、人権を尊重した支援を行っています。	やむを得ない場合の要件を全職員で再確認し、適正な判断を維持します。